

## 「夜明け前の高原」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

高原の朝は早い。3時台・・・まだ暗いうちからホトトギスやアカハラが鳴きだす。私は時々、午前4時前に起きて、自転車や車で、夜明け前の高原を楽しみに出かけている。



夜明け前の東の空。天文薄明はすでに終わり、星は見えなくなった。次第に東の地平線が赤くなってくる。太陽はまだ地平線下  $10^\circ$  ほどで、あたりはかなり暗い。黄道(太陽の通り道)付近が特に明るくなってゆき、日の出の位置がわかるようになってくる。



夜明けというと、太陽が昇る東の地平線にばかり目がいってしまうが、反対側の西の地平線も観察すると良い。地平線の上に青紫色の暗帯が見える。これは「地球影(ちきゅうえい)」といって、地球そのものの影が、西の大気に投影されたものである。その上の薄桃色の帯は「ビーナス・バンド」といって、「先に来た上空の朝」の姿である。地球影は、ビーナス・バンドに押し下げられるようにして、次第に消えてゆく。夕

方から夜になることを、「夜の帳(とぼり)がおおりる」と表現するが、実際に「夜の帳がおおりる」のは、実は明け方に見られる現象なのである。



牧場の乳牛もまだ寝ている。近年、浅間高原では、ほとんどの酪農家は、厩舎の中で牛を飼育している。このように牛を屋外で飼育する農家は、ほとんどなくなったので、牛の寝起きの様子はなかなか観察できない。この農家の存在は貴重だ。



キャベツ畑では、朝霧の中、すでに収穫たけなわである。1つの段ボールには、キャベツが6個入る。空の段ボールを山のように積んで、そこに収穫したばかりのキャベツを詰めて、トラクターに斜めに着けた荷台に積み込む。集積所に運ばれたキャベツは、地元業者のトラックに載せられて、午前中には東京に到着しているというわけだ。